

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和2年3月3日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4677600092
法人名	社会福祉法人幸伸会
事業所名	グループホーム青山荘
所在地	鹿児島県肝属郡錦江町城元3724-1 (電話) 0994-22-3389
自己評価作成日	令和2年1月26日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和2年2月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・空気の澄んだ自然の中で、開設者が植樹した多くの桜の木々に囲まれていて満開がとても楽しみなホームです。小さい畑で野菜を栽培し、花壇に花を植え季節の移り変わりを肌で感じていただけるようにしている。

・共有のスペースは明るく、季節を感じてもらえる設えや安心して生活して頂けるよう、畳台やソファで思い思いに活動や集いの場を確保するよう努めている。

・母体である特別養護老人ホームが同敷地内にあることで利用者様は季節の行事や馴染みの方々との関係を保ちながら生活ができる。職員は他職種との連携や相談、協力をもらい安心して仕事ができる。

・役場、病院等主催の会議や施設内外の研修へ参加し、日々のケアに役立てるようになっている。

・ホーム利用者同士、ご家族、地域の人々、主治医、訪問看護ステーション、隣接する特別養護老人ホームの利用者、看護師、職員、外部レク講師、運営推進委員など地域の多くの人々で寄り合い支え合える開放的なホームを目指している。

・体験学習の受け入れも行い、地域の小学校中学校の生徒にグループホームの役割や認知症への理解を啓発している。

・毎年普通救命講習を受講し「市民救命士のいる事業所」と認定されている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、錦江町市街地から山手に位置し、近隣には、「神川大滝公園」などがあり、系列法人の特別養護老人ホームが同敷地にあり、広大な敷地内には桜の木が周囲を取り巻き、満開の桜をどの居室からも眺めて過ごすことができる住環境にある。開設当初はデイサービスや居宅介護支援事業所も併設されていたが、現在は、近隣に移転している。そのため、利用者は、老人ホームの入所利用者やショートステイ利用の地域の方々と行事やイベントごとを通じて日頃から積極的に交流活動に参加している。また、施設職員は離設傾向の方の対応についてもホーム職員と連携し、本人の意欲を引き出し達成感が得られ焦燥感や帰宅願望などが落ち着きホームでの生活が継続していけるよう法人全体で認知症ケアに取り組んでいる。

利用者の嗜好調査を年1回実施し、法人の栄養士が作成した献立を参考に、昼、夜は、特別養護老人ホームから食事が提供されている。朝食は、ホーム職員が調理し、「カレーの日」「おやつの日」は、利用者と一緒に調理をして食事を楽しんでいる。園庭の桜の花見の時期は、庭先でお茶やおやつを楽しんだり、クリスマスの時期は、ケーキ作りを楽しみ家族との会食もしている。職員は、入居前の食習慣が途切れることがないように配慮し、食への関心や意欲が維持できるよう趣向を変えて食事が楽しくなるようアイデアを出し口腔ケアに努め栄養摂取ができるよう支援している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念、目標をリビングに掲示。朝礼時にリーダーが理念や心構えを読み上げることで共有し、職員は統一したケアの実践に努めている。	法人やホームの理念は、玄関や共有スペースに掲示、パンフレットに掲載され、別途職員一人ひとりの心構えとして、「笑顔」「感謝の心」を掲げ理念に沿って統一したケアの実現に向けて取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域へ買い物に行ったり、保育園や学校等の交流を図っています。また隣接する、特養と合同で、夕涼み会、敬老会、運動会、クリスマス会、家族会などを実施し、年間を通して地域の人々との繋がりを保てるようにしている。	地域とは、保育園や学校行事、文化祭などのイベントを通じて交流しているが、法人施設やホーム近郊に住宅がなく、地域との日常的な付き合いが難しい。特別養護老人ホームのショートステイ利用の方との交流や法人全体の行事での地域交流、ボランティアとの交流、小・中学生のワークショップなどの受け入れを積極的におこなっており学校関係者とも連携をしている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	学校からの体験学習や慰問などの交流を通して、施設の役割、認知症の理解、啓発に努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動報告だけではなく利用者の介護度の変化、事故やヒヤリ報告を行い、包括、民生委員、家族の立場からのアドバイス、要望等情報交換を日々の運営に役立て改善に取り組んでいる。	家族は、交代制で会議に参加していただいており、事業所運営の報告や利用者の現況、ヒヤリハット、事故報告、外部評価結果報告などを行い、会議メンバーと意見交換しアドバイスを頂戴したり、離設傾向の方の処遇について具体的な方策を検討するなど相互に意見を出し解決に向けて話し合い、会議内容は職員全員に周知されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	錦江町認知症初期集中支援推進事業検討委員として管理者は年2回会議に参加。運営推進会議には、包括支援センターの方も参加して頂き、町からの情報も定期的にいただき運営に役立っている。	町職員には、事業所の運営状況や実情を伝え、相互に協力関係を築くなどして関係構築に努めている。管理者は、「認知症初期集中支援推進事業」のメンバーとして関係機関との連携・連絡を密に行い意見交換している。また、町や社会福祉協議会主催の会合や研修会にも積極的に参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月、特養合同により多職種で、困難事例の検討、不適切なケアの見直しについて協議を行います。また環境チェック、虐待の目チェックを行うことで身体拘束ゼロのケア実践へ繋げるように努めている。グループホーム以外の職員も必要に応じ協力要請でケアに関わる体制がある。ただし、言葉遣いは課題である。	「身体的拘束等のための適性化指針」を整備しており、会議は、特別養護老人ホームと合同にて月1回開催されている。研修会も定期的実施され、知識や技術などを研鑽し個々のスキルアップに繋がっている。離設傾向の方の対応については、法人全体で取り組んでおり、鍵をかけない自由な暮らしを支援し、本人のやりがいやしたいことを側面から支援し達成感が得られ日々の暮らしに満足していただけるよう支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	職員全員が施設内研修への参加、毎月の身体拘束廃止委員会や職員会議にて拘束、虐待による弊害を理解している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	高齢者虐待予防の研修と同様に職員会議や、外部講師による施設内研修で学ぶ機会があり、虐待の防止、利用者の尊厳を意識し、チームで仕事に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	居宅支援事業所との連携を図り、入居前の本人との面会で対象者であるかの確認。ホームへの見学を勧め、実際に雰囲気を見て頂くことで入所に対する不安の軽減に努める。契約時には重要事項に沿って説明し、質問を受けながらご家族の十分な理解の確認を行ない契約するようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の声に耳を傾け思いを聴くようにし、必要に応じ家族に状況をお知らせしているが、家族会、交流行事参加が少なく家族の意見が引き出せていないように感じる。家族からは、積極的な意見、要望、相談は無い。家族から、職員みんなで意見がいただけるよう取り組みたい。家族以外の方でも自由に意見がいただけるよう玄関に意見箱の設置をしている。	利用者とは日常的に会話や本人の言動を職員同士で確認し共通認識を図ったり理解するよう取り組んでいる。家族からは、電話や面会時に意見、要望を聞くよう努めている。年2回、家族会を開催したり行事への参加を呼び掛けているが、なかなか家族の参加が得られていない。管理者は、家族との信頼関係に努め忌憚なく意見などが出せるように支援したいと考えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼で、法人全体の予定やホームの予定の周知、必要に応じミーティングでの意見を連絡ノートの活用し情報の共有を図っている。また、職員会議で協議した意見等は統一したケアにつなげている。管理者も現場に入り職員の意見を求めている。	職員の面談は、年度初めに法人の管理職などが実施し、職員会議などで職員の意見、要望等を聞く機会も設けている。シルバー人材センターから職員を採用し、掃除や洗濯などの業務を担当してもらっている。また、法人内の異動があるが、勤務年数の長い職員も多く定着率も高い。法人全体の研修会や勉強会が充実しており職員のスキルアップに繋がっており、資格取得にも法人の応援体制があり職員一人ひとりが個々の目標に向けて取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>管理者が育成研修を受け、法人全体での各事業所の現状を把握、情報交換で職員が働きやすい環境を整えるように取り組み、必要に応じてアドバイスや職員の意見を環境改善に活かすようにしている。</p> <p>人材不足に対しては業務の見直しで少人数でも効率の良い仕事が行えるようにし、シルバー人材から介護経験のある人材を派遣してもらい一緒に働いている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修については希望をきいて、受講する機会が平等にあるが、経験年数で研修内容を検討している。外部研修、施設内研修、勉強会、感染症対策委員会での取り組みでは吐物処理の仕方を全職員が実習、身体拘束適正化委員会では報告書作成の勉強会、緊急時の対応については、毎年救命講習（3時間）を消防署に行き受講している。各種資格取得も応援し、チャレンジできるよう配慮している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>錦江町、地域包括、医療機関が開催する勉強会や交流会の参加で他事業所との地域情報や意見交換の為参加している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始以前に、訪問させてもらい関係機関からの情報を基に、どのような人なのかを背景に認知症の症状が生活でどのような場面で不安や困りごとに繋がるのか確認するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームの運営方針を踏まえ、ご家族の相談やニーズを聞き要望に対応できるかの検討をした上で入居に関する説明を行うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当ケアマネージャーへ対象者の認知症の状況、緊急性などの情報収集をして本人や家族が安心して受けられるサービスを助言する。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	活動を共にし、意識的にその時々本人の言葉を丁寧に傾聴し、表情や行動で想いを察することができるようキーワードを入れ書き込み、職員・主治医・訪問看護師からの情報共有に努め利用者を理解するようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の願いや困りごととは何かを確認し、できる限り家族との繋がりを大切に、協力できることはお願いして共に支えていけるように働きかけ、面会のきっかけ作りに努めている。季刊誌で生活の様子や法人全体の情報などお知らせしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの生活の延長として、可能な限り病院受診や自宅への帰省援助をお願いしている。また、地域のお店への買い物、隣接する特養の利用者や地域の方々と行事を通して、関係継続の機会を提供するように努めている。	職員が利用者と一緒に買い物に出かけたり、家族の協力をいただき一時帰宅や墓参りなどの外出ができるよう支援している。また、年賀状のやりとりや電話の取次ぎなどして関係性が途切れることがないようにしている。ヘアカットは、美容師の資格を所持した職員が援助、ショートステイを利用される地域の方との交流活動にも参加され外出の機会を得ている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リハビリ体操などのレクリエーションや、安心して寄り添い集うソファ、協働できる畳台、落ち着いた食べられる食卓の配置など利用者同士が孤立しないでくつろぐ環境を整えている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用中止後も本人への面会や家族との相談支援に対応、気兼ねなくホームへの訪問や運営へのご協力も頂けている状況がある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員同士、訪問看護師が収集した気づきや情報は申し送りや記録で共有し、できる限り希望や意向に沿えるように努力しているが、困難な場合はご家族や主治医、訪問看護ステーション、法人全体を含め他職種で相談検討して対応している。	職員は、日々の暮らしぶりや本人との会話、家族からの情報を得て本人の思いや意向を把握するよう努めている。困難な場合もあり、申し送りや職員会議、担当者会議などで利用者の思いや希望、意向などについて話し合い共通認識を持つよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族以外の親戚、友人の面会、主治医、民生委員、訪問調査員、商店街などからの情報も頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の能力や意欲で家事の役割、日々のレクではパズル、かるた、ドリル、塗り絵、体操、カラオケ、縫物、編み物などから選んで参加して頂いている。毎月、おやつ作り、書道、カレー作りの日を設け継続参加を促し、体調の変化等の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族との電話や面会での状況報告、相談、受診時の主治医への情報提供、訪問看護師からのアドバイスを評価、職員間でのミーティングや職員会議を利用し検討事項などを話し合い介護計画を作成している。	計画作成担当者などは、本人、家族だけでなく、職員や関係者（主治医、訪問看護師など）から定期的にモニタリングを実施し、ミーティングや職員会議などで意見交換し、担当者会議にて介護計画の話し合いを行いアセスメントやモニタリングの結果を反映させるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ホーム独自の記録書式で1週間分が見れるようにして、生活の様子、健康状態など詳しく記入して職員が把握しやすいようにしている。訪看の看護師も活用し、受診時に医師への報告でも役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	特養や居宅など他職種との連携協力が得られている為、入院での利用中止時は、退院時の状況で法人事業所で柔軟に受け入れるようにして、安心して治療を受けて頂くよう説明している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	特養や居宅など他職種との連携協力が得られている為、入院での利用中止時は、退院時の状況で法人事業所で柔軟に受け入れるようにして、安心して治療を受けて頂くよう説明している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族の意向を尊重して、職員援助以外に必要な適切な医療が受けられるよう情報提供書の準備でご家族の受診同行の協力を得て、医師との連携や相談もできている。	入所前のかかりつけ医であり、定期受診は、家族と職員が協力して受診支援を行い、精神科受診の方がおられたり、眼科や歯科受診などの他科受診の支援がある。毎週、訪問看護による健康チェックや緊急時の施設看護師との連携があるなど24時間医療連携が図れている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>週1回の訪問時に個々の情報・状態について気になる点は連絡を密に行い受診の対応をすぐにできるようにしている。また、急を要する場合には併設の特養の看護師に対応してもらうようにしている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>家族と情報を共有し、治療計画など把握できるようにしている。病院とは入院時に担当看護師やSWへ情報提供を行い、入院後まめに連絡を取り合うようにしている。治療の経過により円滑な早期退院ができるように努めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>利用開始時にホームの看取り介護の指針の説明をし、同意は得ているが、看取りの事例は無い。主治医、訪看等の連携を図る為情報や研修等に参加して体制を整え希望に添えるよう取り組む必要がある。</p>	<p>「看取り介護の指針」があり、契約時に説明と意思確認を行うが、重度化した場合は、その都度の説明、意向確認をおこなっているが、看取りの経験はない。看取りの希望があった場合の対応や方針については指針に基づいて十分な説明を行い、事業所の体制を踏まえ利用者、家族の理解が得られるよう取り組んでいる。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>頻度は少なく、実践については全ての職員で同じようにはいかないが、毎年、消防署にて普通救命講習を受講している。夜勤帯は一人の対応で不安な為、訪看との連携及び状態によっては併設の特養への連絡で応援が駆けつける体制がある。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>夜間火災を想定した自主防災訓練（通報訓練）を通して、意識の向上に努めている。自動通報装置、スプリンクラーの設備もある。災害時においても、近隣住宅は無いが、同敷地内特養の応援体制が得られることで安心できる。非常時に備え保存食料や水、関連備品等が準備してある。隣接の特養からの支援も可能である。</p>	<p>毎月、夜間想定にて自主訓練を実施、法人の協力体制も確保されており、消防署立ち合いの訓練では火災や地震想定にて、通報、避難、消火訓練などを特別養護老人ホームと合同で実施している。また、報道された災害事例を一例に職員全員で意見交換し認識を深めるなど災害に対する意識が高い。職員は、毎年1回普通救命講習会を受講し、「市民救命士のいる事務所」に指定を受けている。水や缶詰類以外の防災グッズなどは、施設で備蓄されている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎月の身体拘束廃止委員会等で拘束の有無を確認をしている。虐待事例はないが、虐待の目チェックを行うと忙しく時間帯こそ、言葉かけに気を付けなければいけないことが分かる。援助の場面によっては、認知症を理解した伝わり易い方言も使いながら、不適切なケアにならないよう心がけて支援を行う必要がある。	職員は、方言の使い方を誤ることなく、失礼な言葉使いや不適切な言動がないか常に注意を怠ることがないよう努めている。ポータブルトイレについては、目隠しをしたり、昼間は引き上げるなどしてプライバシー保護に配慮している。法人全体の研修会もあり、人格や尊厳を守りながらケアが遂行できるよう取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望をなかなか表現できない方もいらしゃるので、傾聴に努め表情も含め思いや気持ちを察するようにしている。どうしたいのか決められるような働きかけをするように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の得意なことや希望に添えるよう趣味活動も選択してもらいながら、利用者の落ち着いた時間などの提供に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	ご自分で衣類を選び更衣されている方は、自然と着やすい好みの服を選ばれがちだが、普段着と行事や外出時の服は変えて頂き気分転換をして頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は昼、夜は外部委託している。利用者にあった（糖尿食等）食事形態で提供を行っている。家族の方との協力で定期受診時の外食や自宅に帰省しての食事などの家族団欒ができている方もいる。誕生会のおやつ作りでは、喜んで頂いている。嗜好調査も栄養士と協力し、食事のメニューに反映する様にしている。	毎月給食委員会が開催され、利用者の希望や嗜好について検討されている。食事形態の工夫や減塩食にするなど配慮があり、おやつ作りの日、カレーの日は利用者が一緒に調理され、肉の日、和食の日を設けたり、花見やクリスマス会などの行事食を楽しんでいる。席次を工夫し自分のペースで食べられるよう配慮したり、つわぶきの皮むきやヨモギの団子作りに手伝いをもたらったり、誕生会は、リクエストメニューにて調理している。また、外出時家族との外食を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事摂取量は実行表に記載することでその人に合った時間での支援が行えている。栄養士との相談で個々の状態に合わせた食事形態、糖尿病食などにより、バランスの良い食事が提供できている。体重測定し採血の結果で低栄養の方には栄養補助食品も加えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のその方に応じた口腔ケア支援。夜間は義歯洗浄剤を使用し除菌を実施。残歯のある方は磨き残しがないか仕上げの援助を行うようにしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の水分の摂取状況から、介護度が高い方でもトイレで排泄ができる援助に努めている。排泄動作がし易い服選びに気を配り、個々の能力に応じ、活動前後に声かけや誘導して尿取りパットの交換・清拭を行い皮膚の保清にも努めている。	排泄のリズムを把握し、定時でトイレ誘導したり、声かけや促しをしてトイレで排泄する方が多い。ポータブルトイレは、プライバシーに配慮され、居室は汚臭もせず清潔感がある。町役場から、「おむつ券」の支給を受けている方もおられ利用者負担が軽減されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便へ、おやつや食材にさつま芋等の食物繊維を多く含む物、乳製品等の提供、体操や水分摂取を積極的に実施。便を柔らかくする薬（マグミット錠）は排便行為の予防や不快感がないよう排便の状況で医師の指示のもと量を調整している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	個々の気分に沿って、無理せず「気持ちが良かった」と思ってもらえるよう、その方の時間・体調などを考慮して、できることはして頂き支援が必要なところは介助させて頂いている。	基本的には、週3～4回入浴していただけよう支援しているが、本人の希望や必要性に応じていつでも入浴ができるよう取り組んでいる。ユニットバスであるが、個々に入浴方法などが異なるため職員の都合で入浴を決めてしまわないよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中活動や、個々の生活のリズムに合わせ、ベッドやソファでゆっくりしてもらった時間も設けている。夜間眠れない時は安心して頂けるように、一緒に寄り添い話を聞いてたり、好むテレビ番組を見てもらったなどの対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方服用の経過で生活に変化や支障をきたす場合は、職員間、訪看との情報の共有を図り相談し、医師へ報告をするようにして薬の相談をしている。変更時は必ず職員間での申し送りをして確認している。また、薬剤師に情報を頂くこともある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>好まれる家事活動が良いか、レクや趣味の活動が良いのか個々の楽しみを把握し、時には季節に合わせた活動を実施。職員は、道具の準備で利用者が活動しやすいように計らう。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>急な外出希望は難しいが希望に添えるよう努力はしている。家族の方へ本人の思いや希望はお伝えし、墓参りの協力が得られる利用者もいる。</p>	<p>外来受診時に近隣をドライブしたり、定期的に娘さんと自宅訪問される方がおられる。また、利用者の希望を聞き取り、天候を見ながら庭を散策したり、隣接の施設への訪問、初詣や花見の時期は計画して出かけている。外出については、利用者の希望を十分に聞いてから本人の希望に沿うよう取り組んでいる。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭管理ができる方については、希望で管理して頂いている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>本人の希望で電話をつなぎ会話して頂きます。遠方のご家族からも電話や贈り物が届き、利用者は電話や手紙でのお礼。それぞれの家庭に年賀はがきを送付している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>庭には季節の花や野菜、玄関にはホームの活動紹介や観葉植物、共有スペースには季節に応じた飾りや花、手芸作品、行事予定のお知らせの掲示などを行っている。加湿器や空調設備で快適に過ごせるようにしている。不快な臭いなど無いよう換気も午前午後で行っています。ソファは体操やテレビを見ての談話が弾む場所でもある。</p>	<p>玄関には、水仙やフリージアが活けてあり、リビング、廊下へとゆとりがあり採光もあって天井が高く開放感がある。折り紙の絵画、イベント時の写真などが掲示され、利用者の作品が展示してある。また、テレビやソファ、畳台があつて思い思いに過ごせるよう工夫されている。リビングは、広々としているため、三味線などのボランティアの来訪時にも余裕があり利用者と職員と一緒に演奏を楽しんだり居心地よく過ごせている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共有空間では一人ひとりの性格や認知症による行動などもある為、気の合う同士で過ごせるようなテーブルの配置や居場所作りに配慮しているが、なかなか共有空間では独りになれる場所作りは難しく、家族の面会時などある場合は自室で家族と過ごせるよう心掛けている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>カレンダー、時計、ベッド、タンスの配置については、随時本人や家族の要望又は事故後の安全に配慮した配置を検討し過ごしやすいよう整えるようにしている。</p>	<p>居室は、掃き出しや腰窓の構造になっており、窓越しに庭の草花や桜の木や季節の木々が見えるため部屋から季節変化を感じることが出来る。使い慣れた品を持ち込み本人が居心地よく過ごせるよう工夫しており、視覚障害のある方もおられるため住環境を整え安心して暮らせるよう配慮している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>目に障害のある方もいて、場所が分かるように個室の名前や便所の表示は目線で大きめの表示がある。電気のスイッチが分かるような工夫や個々の残存機能を活用し立位が取れる方には、ベッドにはスイングアームバーを設置して安全に立位保持ができるようにしたり、転落の予測される方についてはベッドの高さを低い高さに調整するなどすることで転落時の衝撃緩和を図れるよう安全面に配慮した環境整備に努めている。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない